

茨城県神栖市における地下水モニタリング（平成 26 年冬季～秋季） の結果について

1. 地下水モニタリングの概要

茨城県神栖市においては、地下水の水位測定を毎月（年 12 回）、ジフェニルアルシン酸（以下「DPAA」）の分析を平成 16 年夏季以降、季節毎（年 4 回）に実施している。また、A 地区については毎月（年 12 回）の総ヒ素モニタリングを実施している。平成 26 年冬季の採水は 2 月 6 日～2 月 10 日に、春季の採水は 5 月 8 日～5 月 12 日に、夏季の採水は 8 月 4 日～8 月 6 日に、秋季の採水は 11 月 10 日～11 月 12 日に実施した。

平成 26 年秋季の地下水モニタリングは、高濃度汚染対策の揚水処理（揚水は平成 21 年 4 月から平成 24 年 3 月まで実施）の終了から約 31 ヶ月後のデータとなる。

2. 地下水モニタリングの結果概要（まとめ）

平成 26 年冬季～秋季モニタリングにおいて、飲用自粛範囲を超える汚染拡大は無いことが確認された。その結果概要を以下に示す。

（1）掘削調査地点付近について

掘削調査地点を含む一区画の土地は、高濃度汚染対策（揚水）の完了に伴い平成 24 年 12 月に現状復旧を終えている。濃度上昇が確認される地点が数箇所あるものの、多くのモニタリング井戸では、DPAA 濃度に大きな変化は確認されておらず、汚染が掘削調査地点より南側に拡散していることはないと考えられる。

（2）A 地区の A 井戸近傍について

高濃度汚染対策実施前 20mg·As/L を超える高濃度の DPAA による汚染が集中して存在していた A 井戸直近では、No.39 以外はおおむね 0.1mg·As/L 以下となり高濃度の地点は見られない。高濃度汚染対策実施当初は濃度低下が緩慢であった No.39 も、平成 22 年夏季以降は 0.2mg·As/L 程度以下で推移している。この範囲では濃度の大幅な上昇は確認されていないことから、現時点で A 井戸近傍に大きな高濃度汚染ブルームが存在している可能性は低いと考えられる。

（3）A 地区の A 井戸下流について

No.201 周辺のモニタリング井戸では依然として 1mg·As/L 程度の DPAA による汚染が見られており、局所的には数 mg·As/L 程度の汚染が地下水中に残存しているものと考えられる。なお、地下水位変動に伴う汚染ブルームの揺らぎの影響で No.201 付近では濃度変動が大きい。

（4）AB 間について

DPAA による汚染はこれまでと同様に、深度 30m を主体に確認されているが、濃度は低下傾向にある。

（5）B 地区について

DPAA による汚染はこれまでと同様に、B 地区中心部の深度 30m を主体に確認されているが、濃度は低下傾向にある。

（6）AB トラック外縁部について（AB トラック南西地域）

AB トラック外縁部において、DPAA が検出されたのは、これまでと同様に AB トラック南西地域のみである。同地域において DPAA が最も高濃度を示したのは、これまでと同様に M-20 であったが、濃度は緩やかな低下傾向にある。

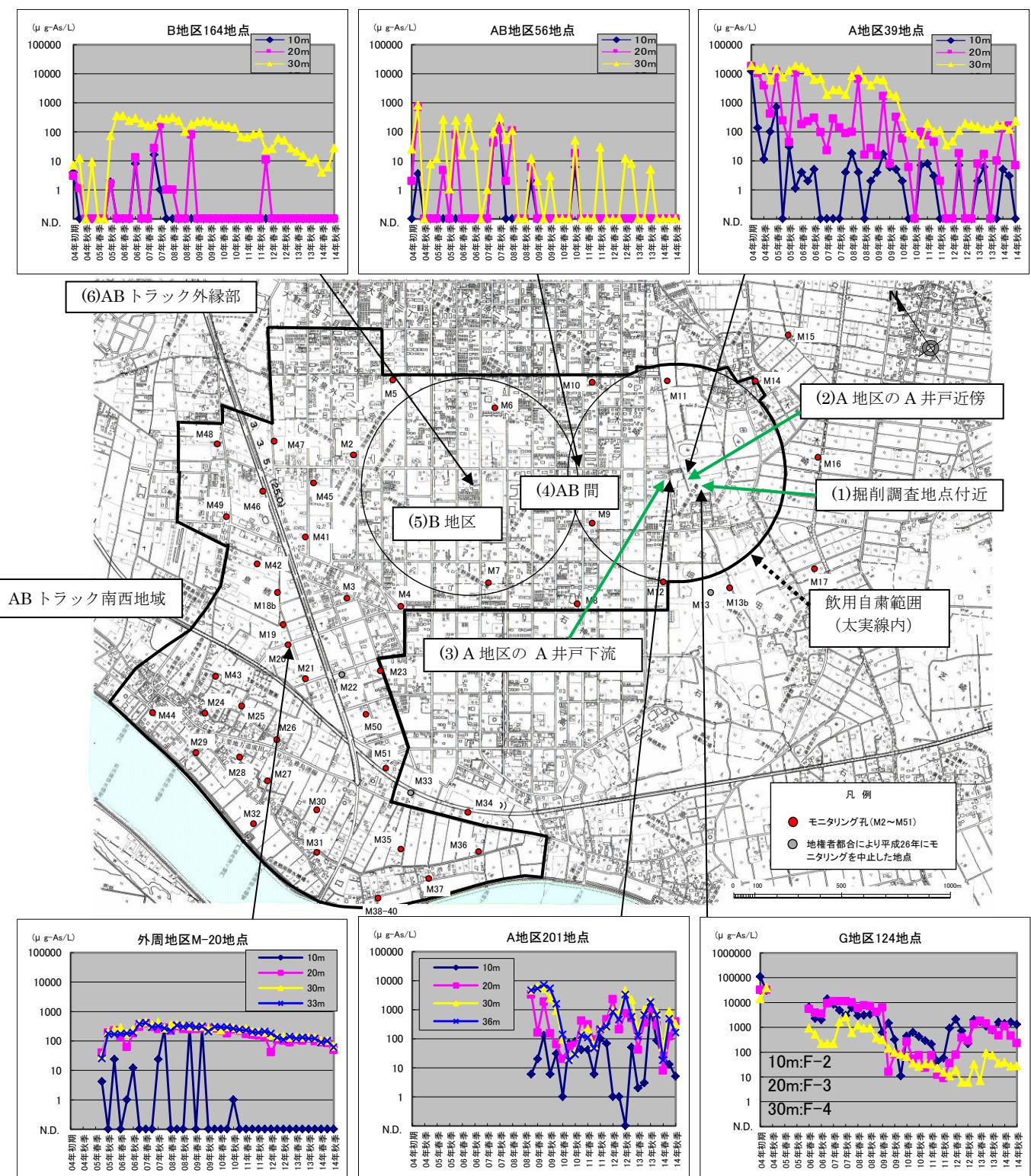


図 1 地下水モニタリング結果概要図

3. モニタリングの結果

(1) 地下水位の測定結果（図2 降水量と地下水位変動及び図3 地下水センター参照）

地下水位は平成26年2月、5月、6月と低水位であったが、6月～7月の多雨によって上昇し、8月以降は2.155～2.459m（A井戸直近（No.36））で小幅の変動を繰り返している。

A井戸直近（No.36）の地下水位、B地区（No.163）の地下水位、A井戸直近とB地区の水位の差は表1のとおりである（平成24年度以降は、ABトラック外縁及び主要地点に設置していた自記水位計による観測は中止し、テスター式水位計による月1回の観測を実施している）。

表1 A井戸直近の地下水位、B地区の地下水位及びA井戸直近とB地区の水位差

（単位：m）

年	平成26年						
	1月9日	2月4日	3月5日	4月11日	5月15日	6月2日	7月9日
A井戸直近	2.216	2.012	2.432	2.260	1.850	1.855	2.768
B地区	1.946	1.756	2.168	2.027	1.630	1.633	2.536
水位差	0.270	0.256	0.264	0.233	0.220	0.222	0.232
年	平成26年				平成27年		
測定月日	8月1日	9月2日	10月2日	11月13日	12月9日	1月8日	2月2日
A井戸直近	2.298	2.459	2.155	2.350	2.368	2.230	2.388
B地区	2.148	2.170	1.930	2.114	2.044	1.944	2.044
水位差	0.150	0.289	0.225	0.236	0.324	0.286	0.344

AB間の地下水の流れは、これまでと同様、いずれの時期もA井戸からB地区に向かっている。また、ABトラック南西および西地域の地下水の流れは、これまでと同様、いずれの時期も常陸利根川方向に向かっている。

(2) DPAAの分析結果

DPAAの分析結果については、平成26年の1年間を通して、大きな変化が確認されないため、以下では直近の平成26年秋季の分析結果を中心に考察を示す。

①掘削調査地点付近（図4 DPAA濃度変化掘削調査地点周辺参照）

平成26年秋季モニタリングにおいて最も高濃度を示したのは、掘削調査地点の西側の地下水流れの下流側に位置するF-23で、いずれの深度でも1.6mg·As/L（夏季深度10m：1.5mg·As/L、深度20m：1.6mg·As/L、深度30m：1.8mg·As/L）、次いで掘削調査地点内のNo.124の深度10m（F-2）で、1.3mg·As/L（夏季1.6mg·As/L）であった。なお、本範囲において、平成26年における最大濃度はF-23（春季深度20m）の2.6mg·As/Lであった。

掘削調査地点内について深度別に見ると、F-2（深度10m）で1.3mg·As/L（夏季1.6mg·As/L）、F-3（深度20m）で0.23mg·As/L（夏季0.45mg·As/L）、F-4（深度30m）で0.028mg·As/L（夏季

0.027mg·As/L）となり、深度30mは低濃度となっている。

深度20mについては、高濃度汚染対策終了後に濃度上昇傾向となり、深度10mよりも高濃度となる地点（No.124、No.83）があったが、平成26年夏季以降は濃度が低下しており、深度10mよりも低濃度となっている。

掘削調査地点外のF-23において周辺よりもやや高濃度となっている原因については、高濃度汚染対策（揚水）で除去しきれなかった汚染地下水の流下、浸透の影響が考えられる。

F-23については、深部が土砂で埋まっていたため、平成24年12月に井戸洗浄を実施し、深度30mの採水が可能になった。しかし、井戸洗浄後も全深度で濃度が同じ傾向が続き、依然として井戸のストレーナに閉塞が生じているものと考えられたため、平成25年11月に再度、井戸洗浄を実施した。その結果、一時的に総ヒ素濃度の低下と深度別の濃度差が見られたものの、平成26年秋季時点では全深度で濃度が同じ傾向となっており、明確な井戸洗浄の効果は確認されていない。ただし、掘削調査地点内においても1.3mg·As/L（平成26年秋季）程度の汚染が確認されており、掘削調査地点付近の地下水中には数mg·As/L程度の汚染が残存していると考えられることから、F-23が周辺と比較して特別に高濃度という状況ではなく、当面は濃度の推移を注視することとする。

掘削調査地点外北側に位置するF-13～F-15は、平成26年秋季、深度15m（F-15）で0.059mg·As/L（夏季0.040mg·As/L）となり、大きな濃度変化は生じていない。

掘削調査地点の外縁に設置したF-24～F-30については、汚染源の上流側のF-29、F-30で、平成25年冬季モニタリングで0.3～0.6mg·As/L程度の濃度がみられた後は0.1mg·As/L程度以下の濃度で推移していたが、平成26年春季以降やや濃度上昇し、平成26年秋季時点では0.17～0.25mg·As/Lとなっている。

その他のモニタリング井戸においては、大きな濃度変化はなく、汚染は掘削調査地点の南側には拡散していないと考えられる。

②A井戸近傍について（図5 DPAA濃度変化A井戸周辺参照）

平成26年秋季モニタリングにおいて、A井戸近傍（半径約25m内）で最も高濃度を示したのは、平成25年秋季と同様に、A井戸の南西約10mに位置するNo.39の深度30mで0.23mg·As/L（夏季0.12mg·As/L）であった。次いで、A井戸の南東約8mに位置するB-1井戸の深度20mで0.030mg·As/L（夏季0.028mg·As/L）であった。

No.39は高濃度汚染対策（揚水）の実施中においても濃度低下が緩やかで、周辺のモニタリング井戸よりも濃度が高い傾向にあったが、平成22年夏季以降は0.2mg·As/L程度以下で推移している。

平成23年夏季以降、A井戸近傍で0.1mg·As/L以上の汚染がみられたのはNo.39とNo.40（平成26年夏季のみ：0.18mg·As/L（深度30m））の2地点のみであり、その他のモニタリング井戸では0.1mg·As/L以下となっていることから、現時点ではこの範囲に大きな高濃度汚染プルームが存在する可能性は低いと考えられる。

③A井戸下流、No.201付近からグラウンド南西角No.28にかけて(図5 DPAA濃度変化A井戸周辺参照)

平成26年秋季モニタリングにおいて、A井戸の下流に位置するNo.201付近からグラウンド南西角に位置するNo.28にかけての範囲で、最も高濃度を示したのはNo.201の深度20mで0.39mg·As/L(夏季0.12mg·As/L)、次いで同地点の深度30mで0.32mg·As/L(夏季0.87mg·As/L)であった。

また、平成26年夏季モニタリングにおいて、No.201の南東約20mに位置するNo.156の深度20mで1.4mg·As/Lと同範囲で最も高濃度を示しており、次いで同地点の深度30mで0.96mg·As/Lであった。No.156のいずれの深度についても、同年秋季モニタリングにおいてはDPAAは不検出であった。No.156で濃度が1mg·As/L以上となったのは、平成22年秋季以来であるが、細長く帶状に分布する汚染プルームの地下水位変動に伴う揺らぎの一環で、No.156がやや高濃度として検出されたものであり、これまでの傾向と大きく変わるものではないと考えられる。

グラウンド南西角に位置するNo.28は、春から夏にかけて濃度が上昇する傾向にある。平成26年も春季は深度30mで0.9mg·As/L、夏季は深度30mで0.43mg·As/Lであったが、秋季は全深度で0.01mg·As/L以下まで濃度が低下した。

本範囲において最大濃度を示す地点が、冬季はNo.201の深度30m(0.85mg·As/L)、春季はNo.28の深度30m(0.90mg·As/L)、夏季はNo.156の深度20m(1.4mg·As/L)、秋季はNo.201の深度20m(0.39mg·As/L)と南北に変動していること、また多くの地点で時期による濃度変動が大きいこと、平成24年秋季モニタリングにおいてNo.201(深度30m)で4.6mg·As/Lを示したことや平成25年秋季モニタリングにおいてNo.201(深度30m)で2.0mg·As/Lを示したことから、No.201付近には依然として数mg·As/L程度の小さく細長い汚染プルームが存在しており、地下水位の変動に伴って南北方向に揺らいでいる状況と考えられる。

④AB間にについて(図7 DPAA濃度変化ABトラック参照)

平成26年秋季モニタリングにおいて、AB間にでは3地点で低濃度の汚染が確認された(夏季は2地点)。

AB間に中央のややA井戸寄りに位置するNo.177の深度30mで0.005mg·As/L(夏季0.003mg·As/L)、No.55の深度30m、36mで共に0.002mg·As/L(夏季深度30m:N.D.、深度36m:0.001mg·As/L)、No.176の深度30mで0.001mg·As/L(夏季N.D.)であった。また、平成26年夏季、秋季モニタリングにおいて、深度10m及び20mではDPAAは検出されなかった。

AB間に引き続き大規模的には濃度低下傾向があり、平成23年春季以降は、最大でも0.03mg·As/L程度の低濃度の汚染が帶状に分布していると考えられるが、平成26年においては、春季以降0.01mg·As/L以下の低濃度の汚染が検出されるのみである。

⑤B地区について(図6 DPAA濃度変化B地区参照)

平成26年秋季モニタリングにおいて、B地区は引き続き大規模的には濃度低下傾向にあり、汚染はこれまで同様にB地区の中心から半径50m内の深度30mを主体に確認されている。

平成26年秋季モニタリングにおいて、最も高濃度を示したのは、B地区の中心から北東約50m

に位置するNo.164の深度30mで0.029mg·As/L(夏季0.006mg·As/L)であった。また、平成26年春季以降は、深度10m及び20mでは、DPAAは不検出であった。

⑥ABトラックの外縁部について(図7 DPAA濃度変化ABトラック参照)

平成26年秋季モニタリングにおいて最も高濃度を示したのは、これまで同様ABトラック南西地区のM-20であり、深度30mで0.065mg·As/L(夏季0.1mg·As/L)、深度20mで0.049mg·As/L(夏季0.083mg·As/L)、深度10mでN.D.(夏季N.D.)であった。同地点は、A地区以外では最も濃度が高く、一定の濃度で検出され続けている地点であるが、濃度は緩やかな低下傾向にある。なお、M-20では平成26年秋季に、平成17年夏季の観測開始以来初めて、全深度で濃度が0.1mg·As/Lを下回った。

常陸利根川に近い地域では、M-20の下流域と考えられるM-25(10、20、30m)、M-27(10、20、30、40m)、M-28(40m)、M-29(40m)、M-32(20、30m)において汚染が確認された。流れの上流側に位置するM-25、M-27、M-28では濃度は横ばいから減少に転じていると考えられるが、その下流側のM-29、M-32では濃度の変動があり、今後も引き続き注視していく必要がある。

平成24年冬季にM-22で初めてDPAAが検出されたことに伴い追加設置したM-50及びM-51は、モニタリングを開始した平成24年春季以降、全深度でDPAAは不検出であった。また、M-22の直近に位置するM-21及びM-23も、平成26年冬季にM-21の深度30mで0.002mg·As/LのDPAAが検出されたほかは全深度でDPAAは不検出であった。

ABトラックの西地域に位置するM-41は、平成20年夏季モニタリングにおいて深度20、30mで0.071mg·As/Lであったが、平成26年秋季モニタリングでは0.008~0.009mg·As/L(夏季0.007~0.010mg·As/L)となり、低濃度で安定している。

M-46はモニタリング井戸設置直後の平成20年夏季に汚染が確認されたが、平成20年秋季以後は全深度においてDPAAは検出されていない。この原因については、当時稼働中であった企業局No.8号井戸により地下水位が影響を受けたものと想定している。なお、企業局No.8号井戸は平成20年6月以降停止中である。

図2 降水量と地下水位変動

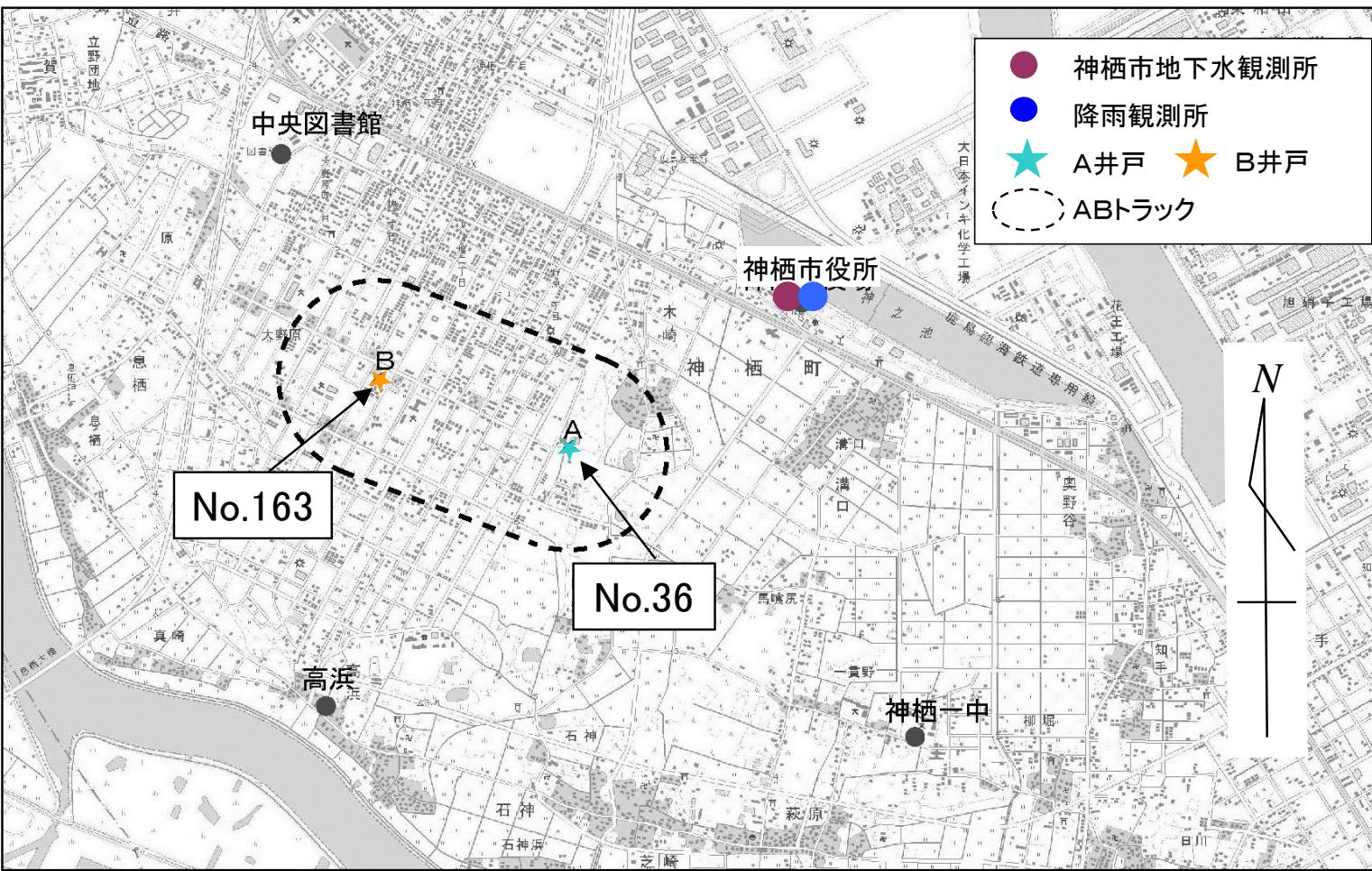
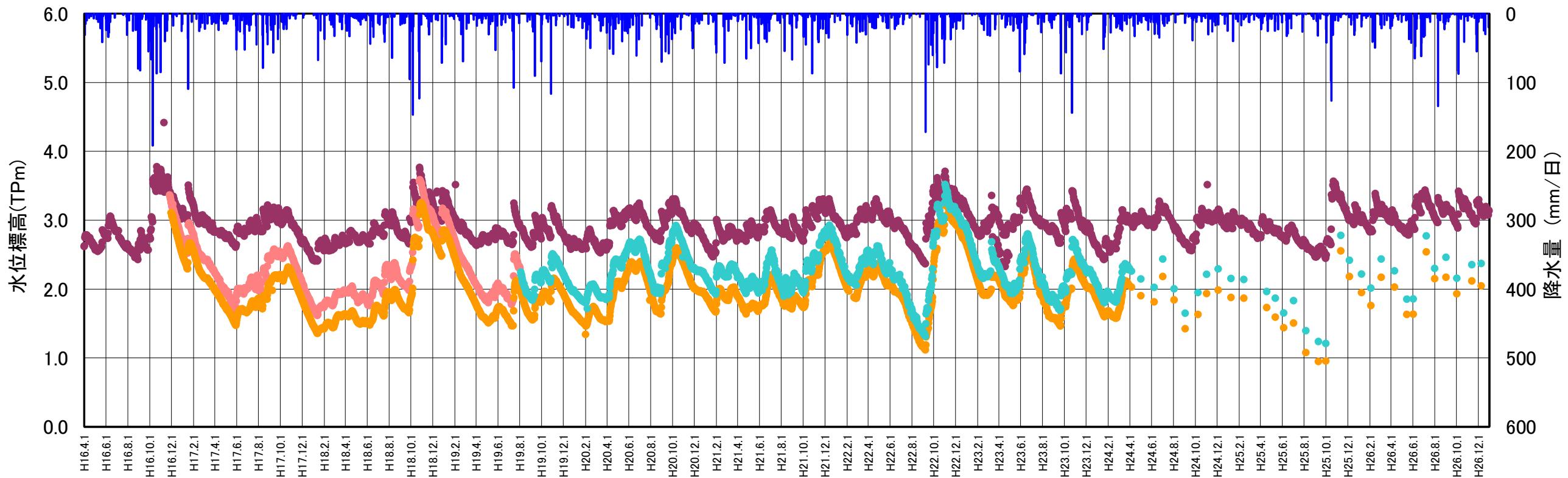


図3 地下水位センター

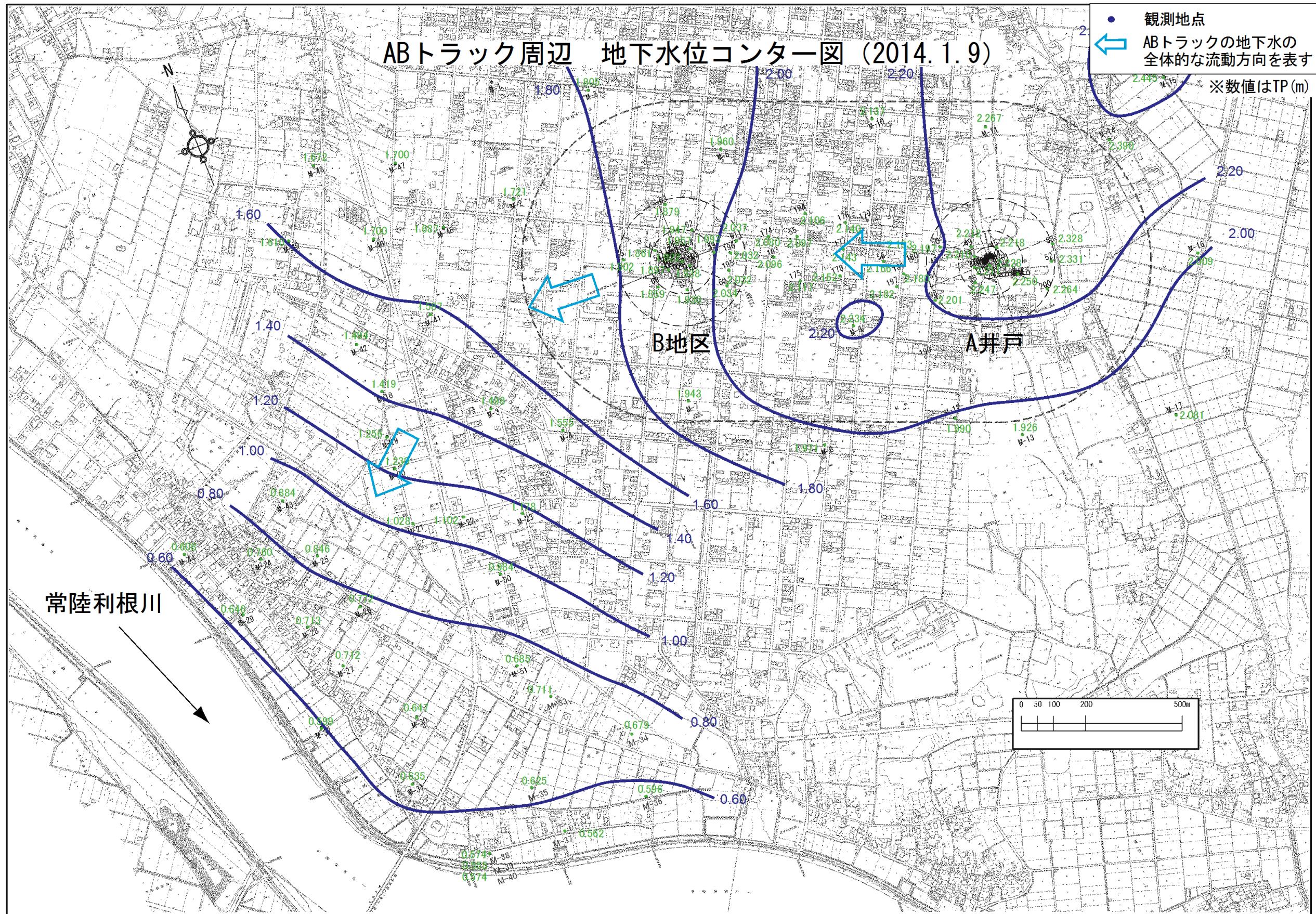


図3 地下水位センター

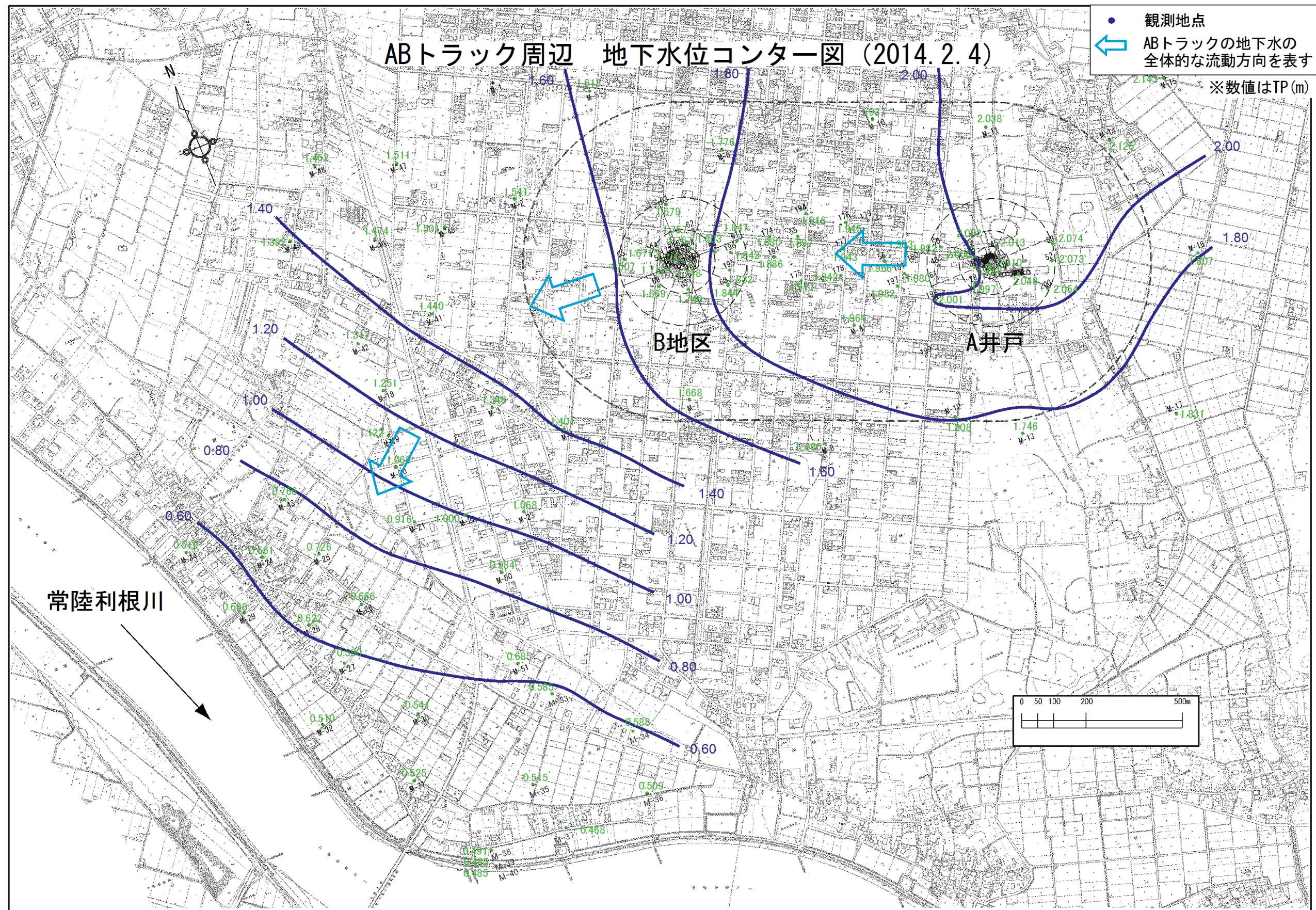


図3 地下水位センター

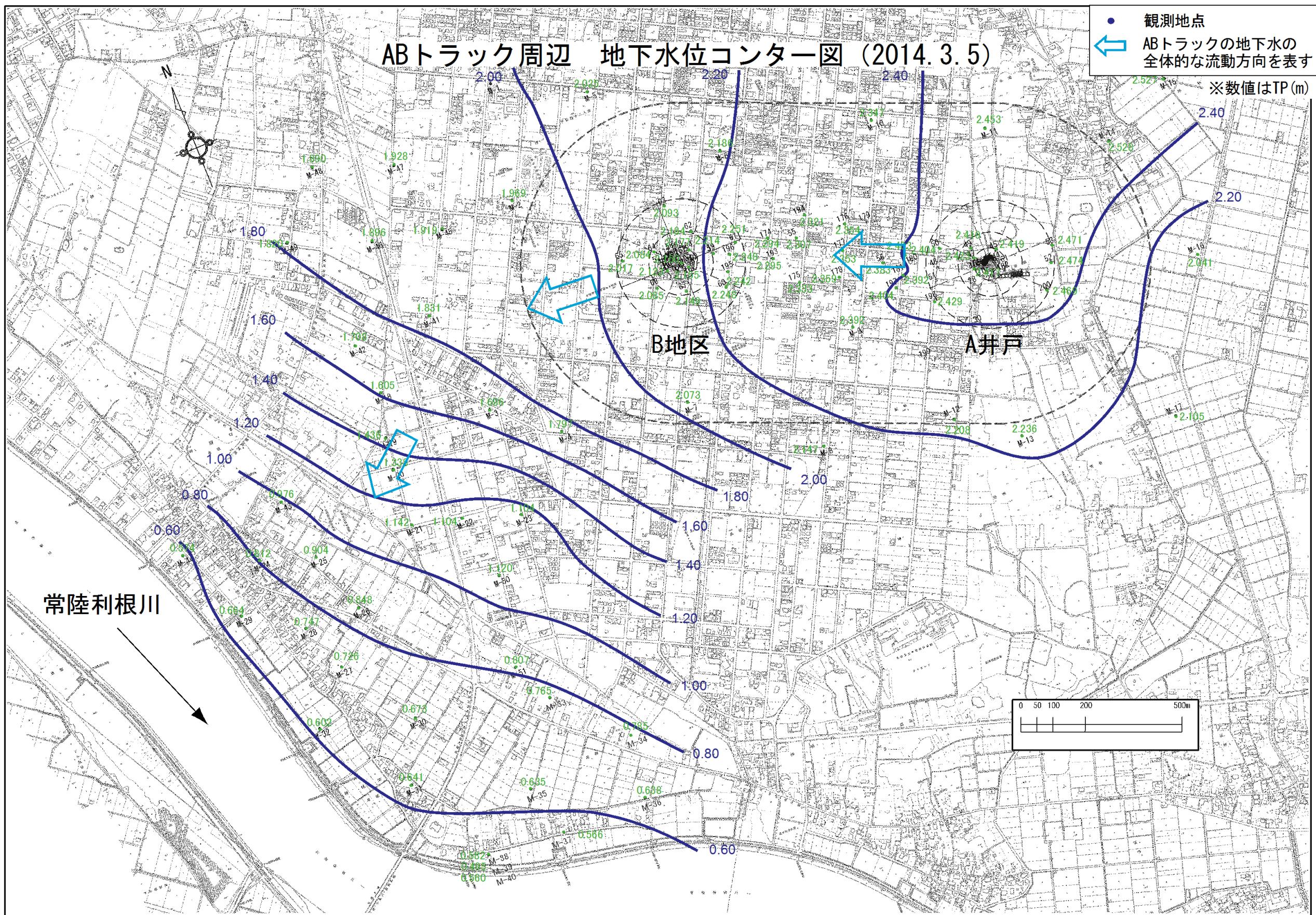


図3 地下水位センター

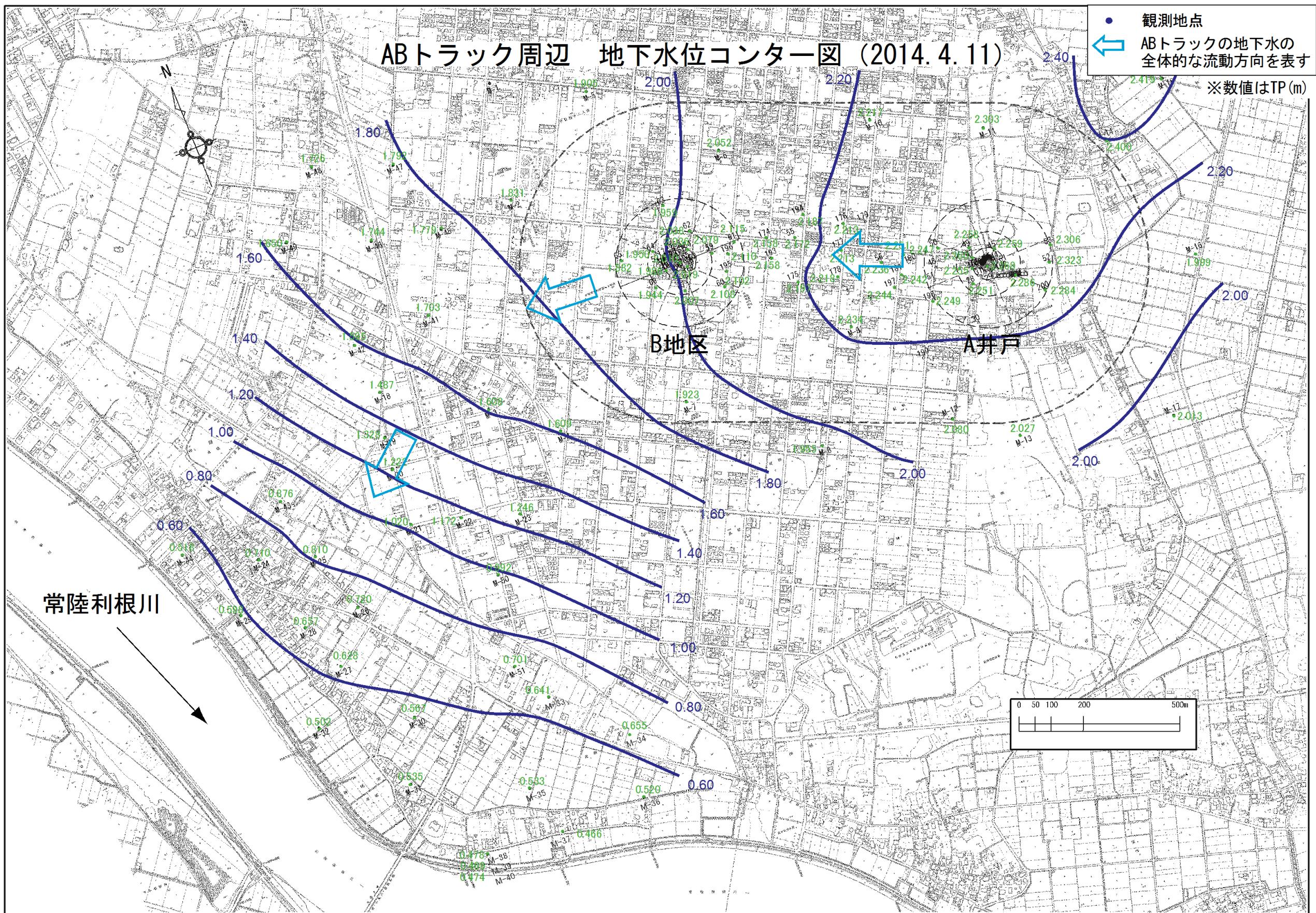


図3 地下水位センター

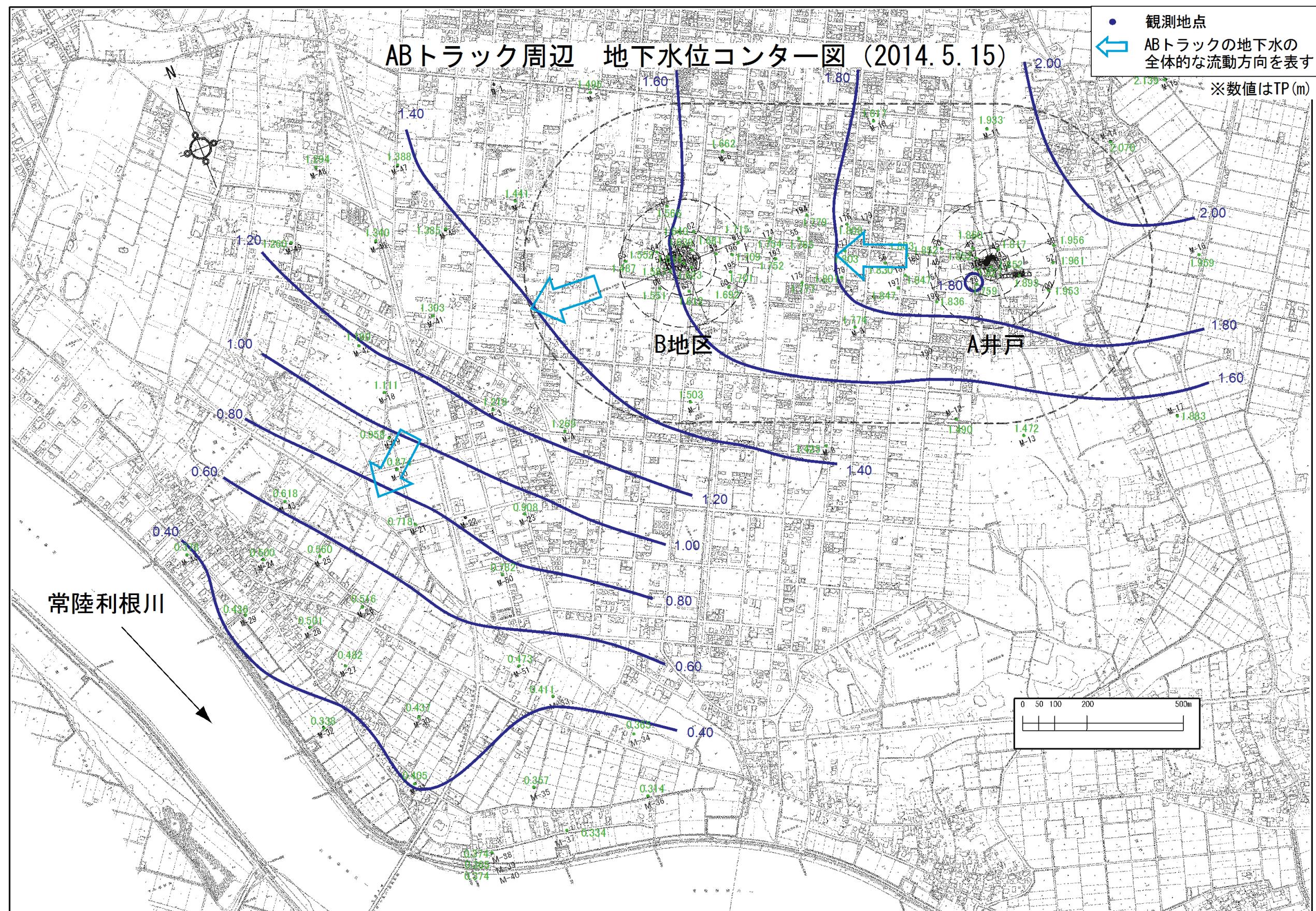


図3 地下水位センター

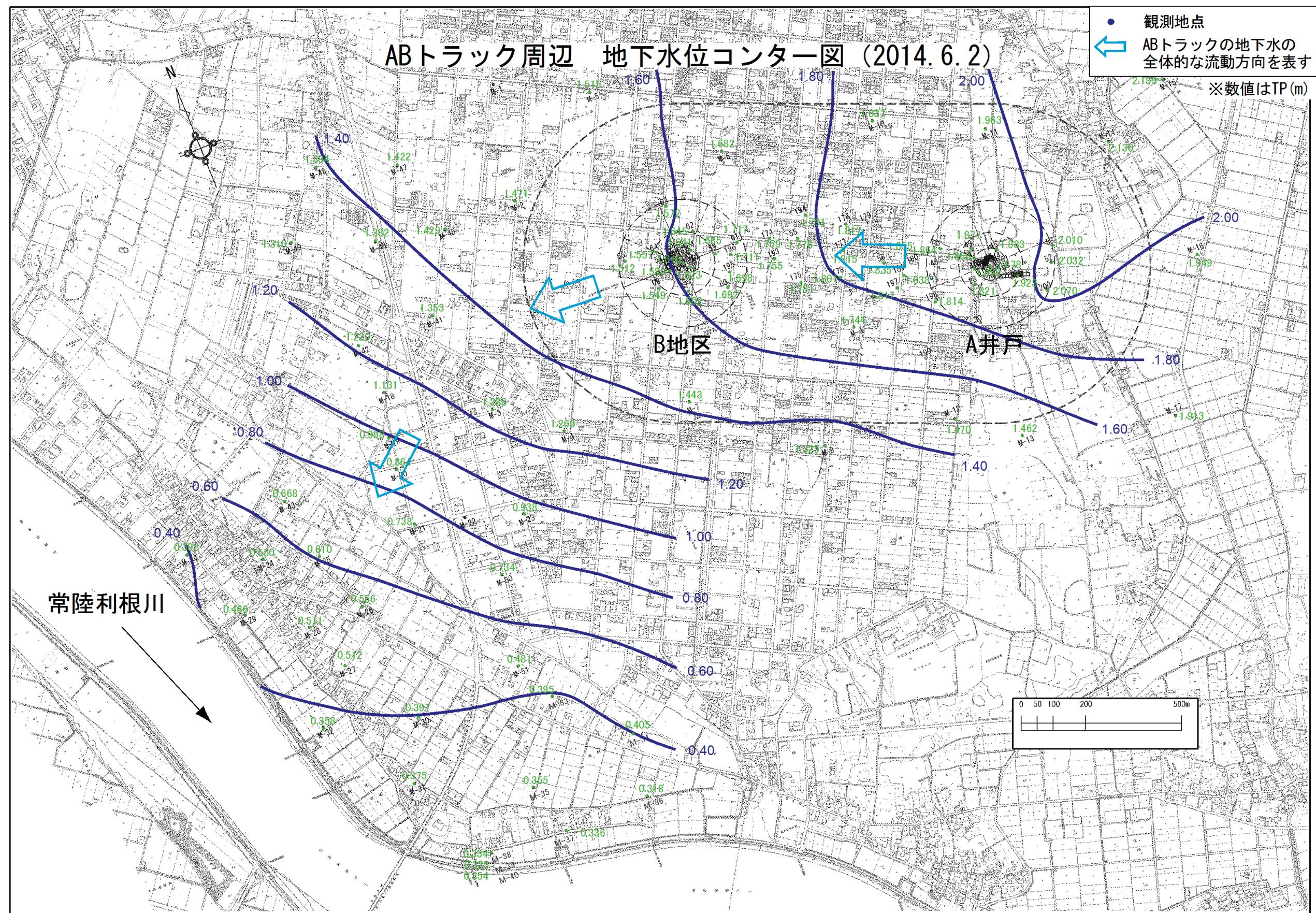


図3 地下水位センター

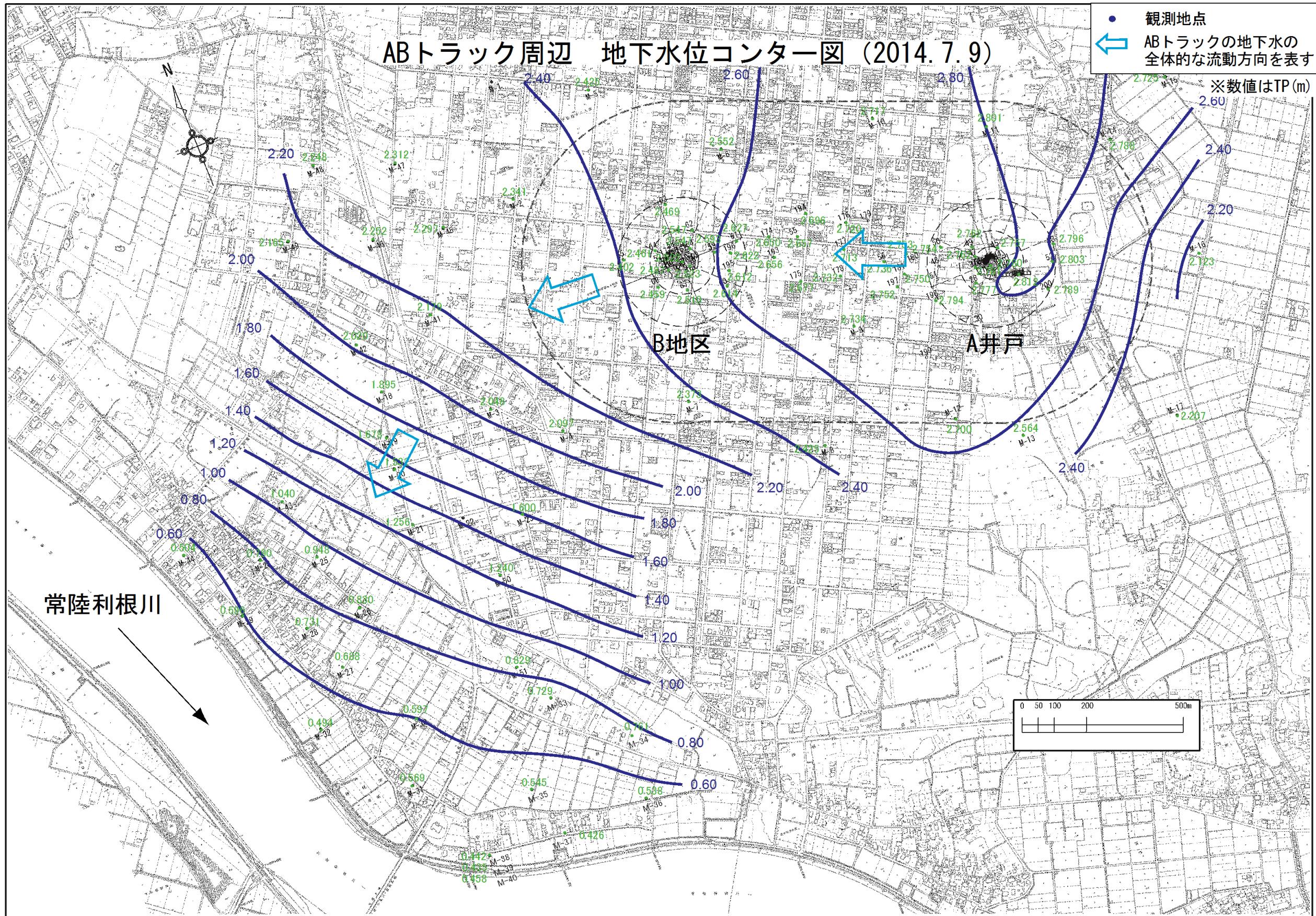


図3 地下水位センター

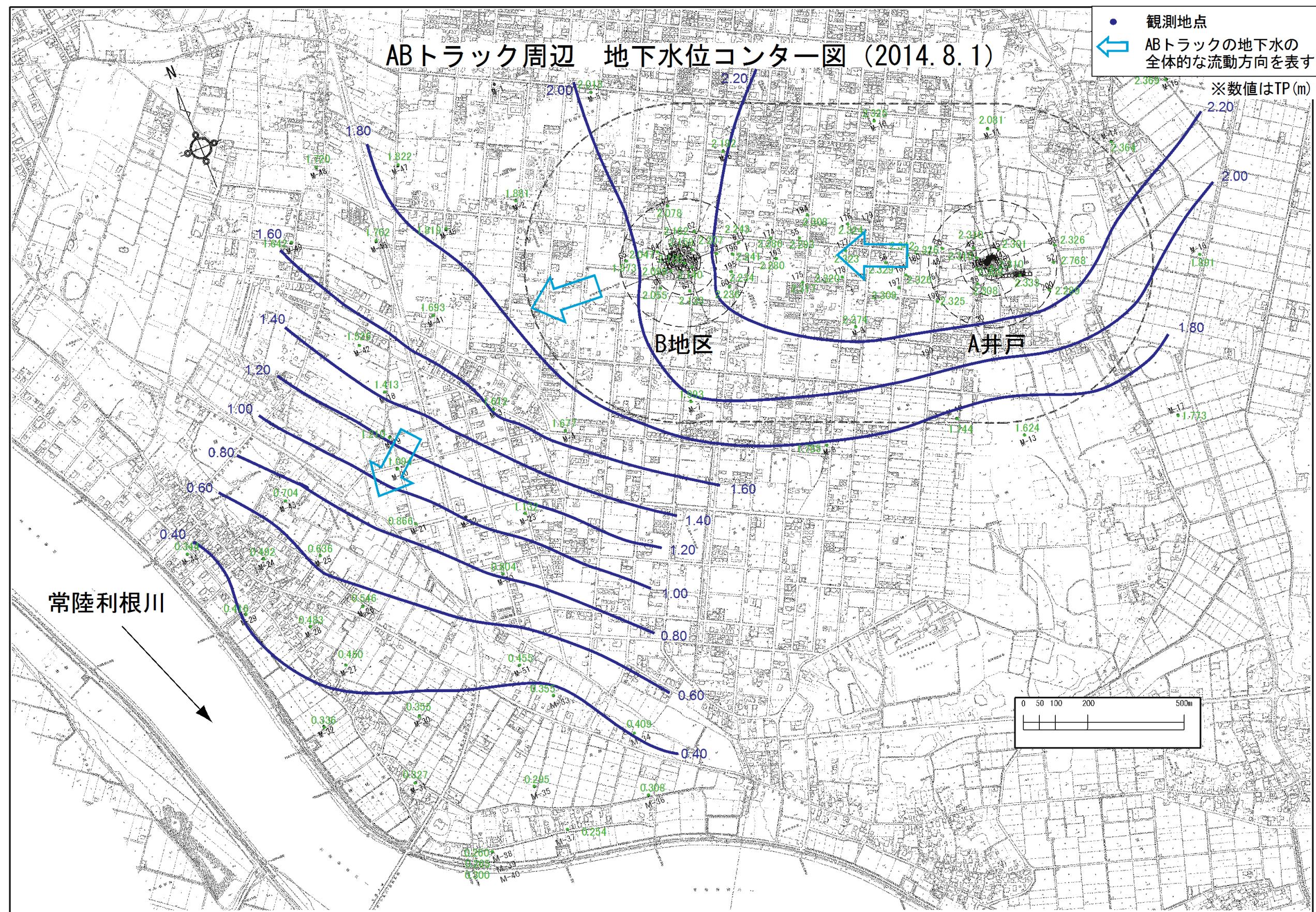


図3 地下水位センター

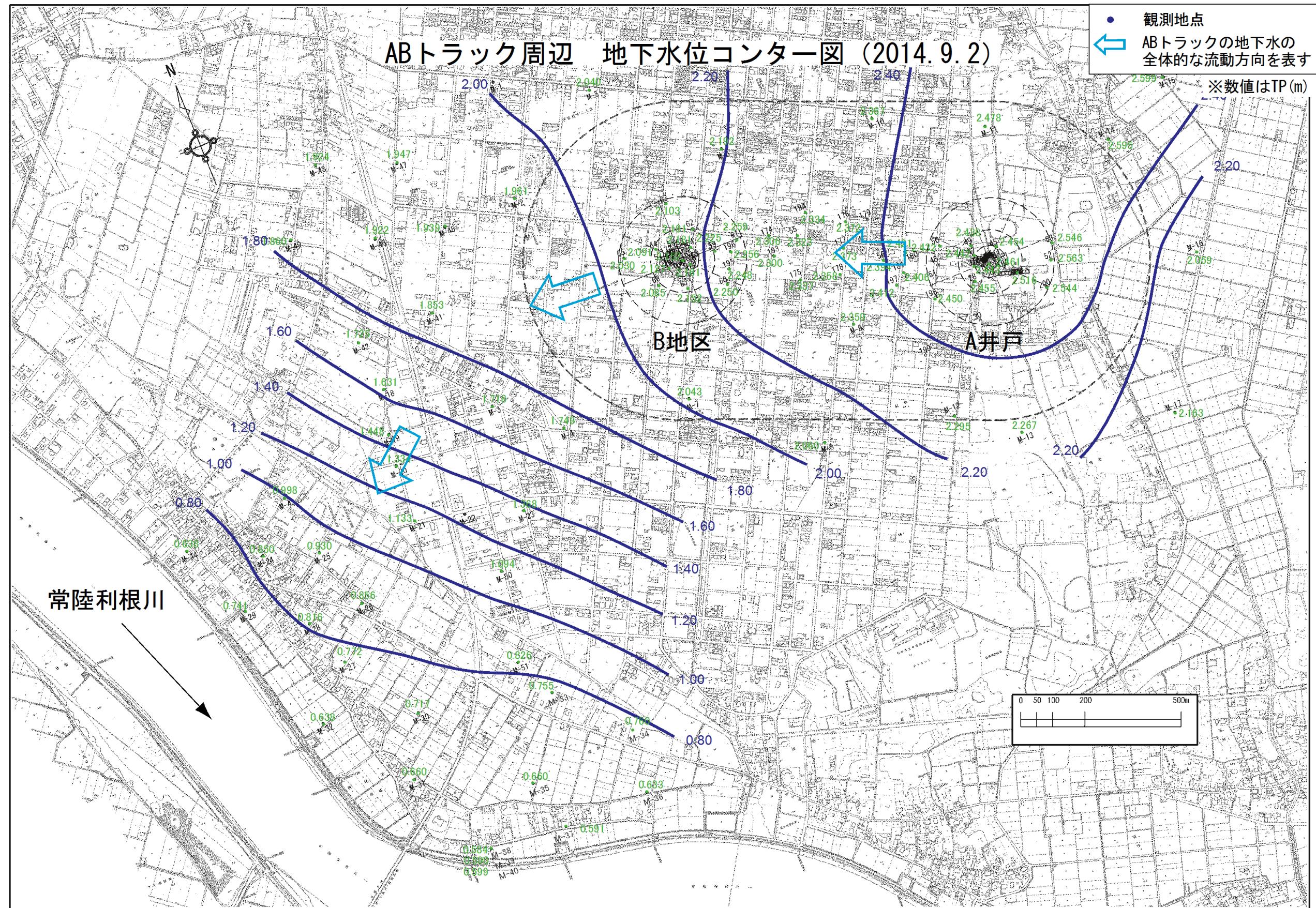


図3 地下水位センター

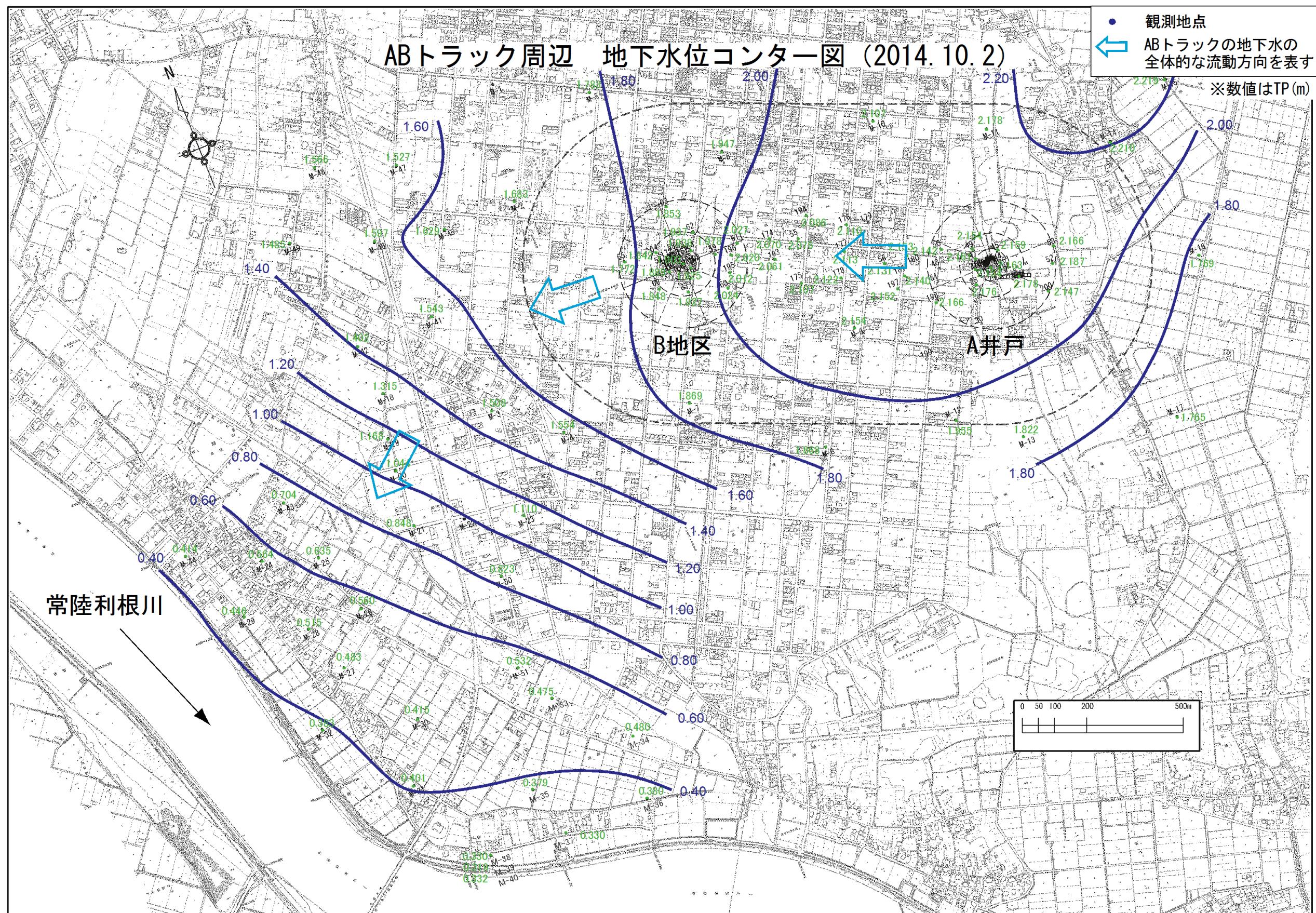


図3 地下水位センター

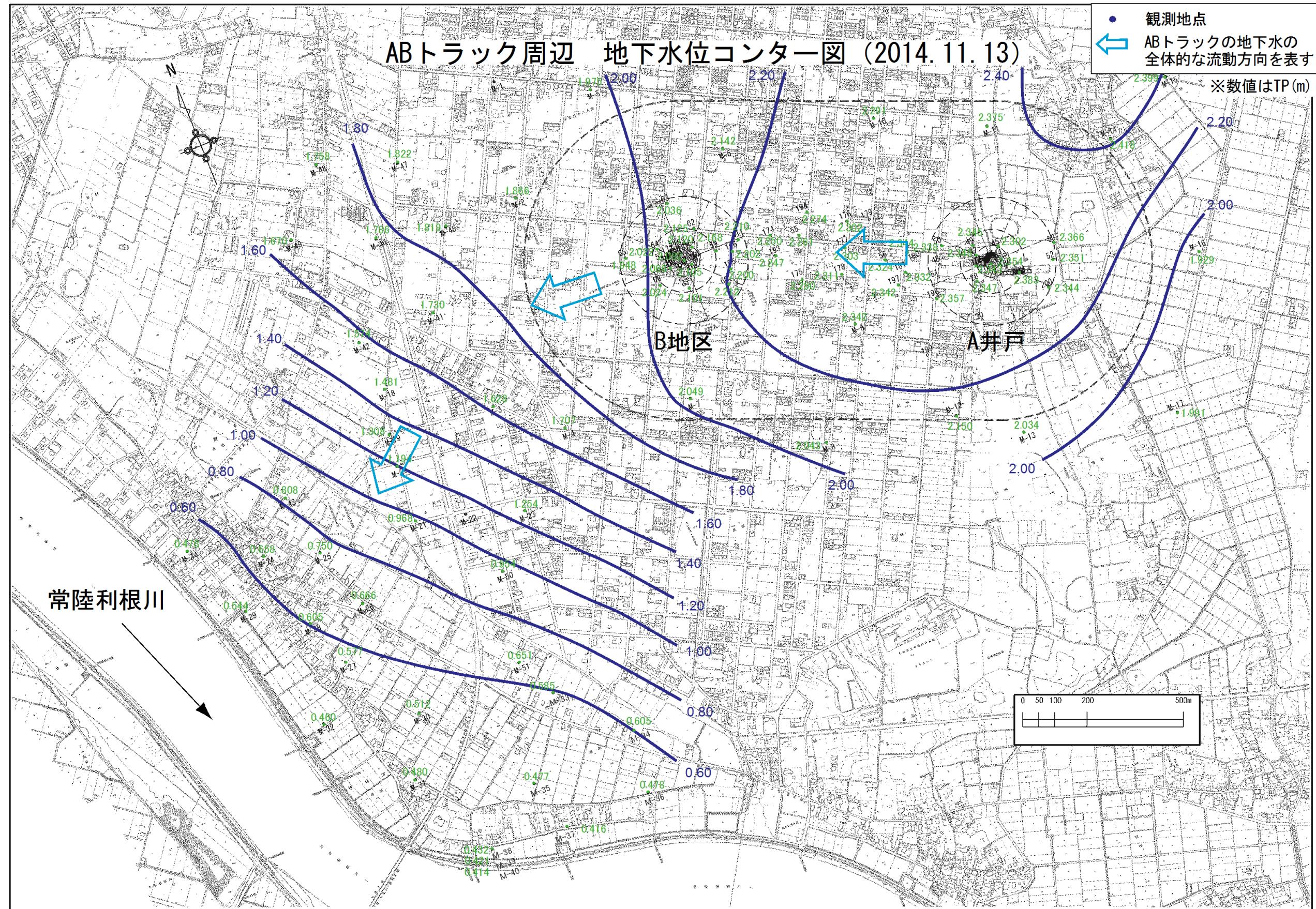


図3 地下水位センター

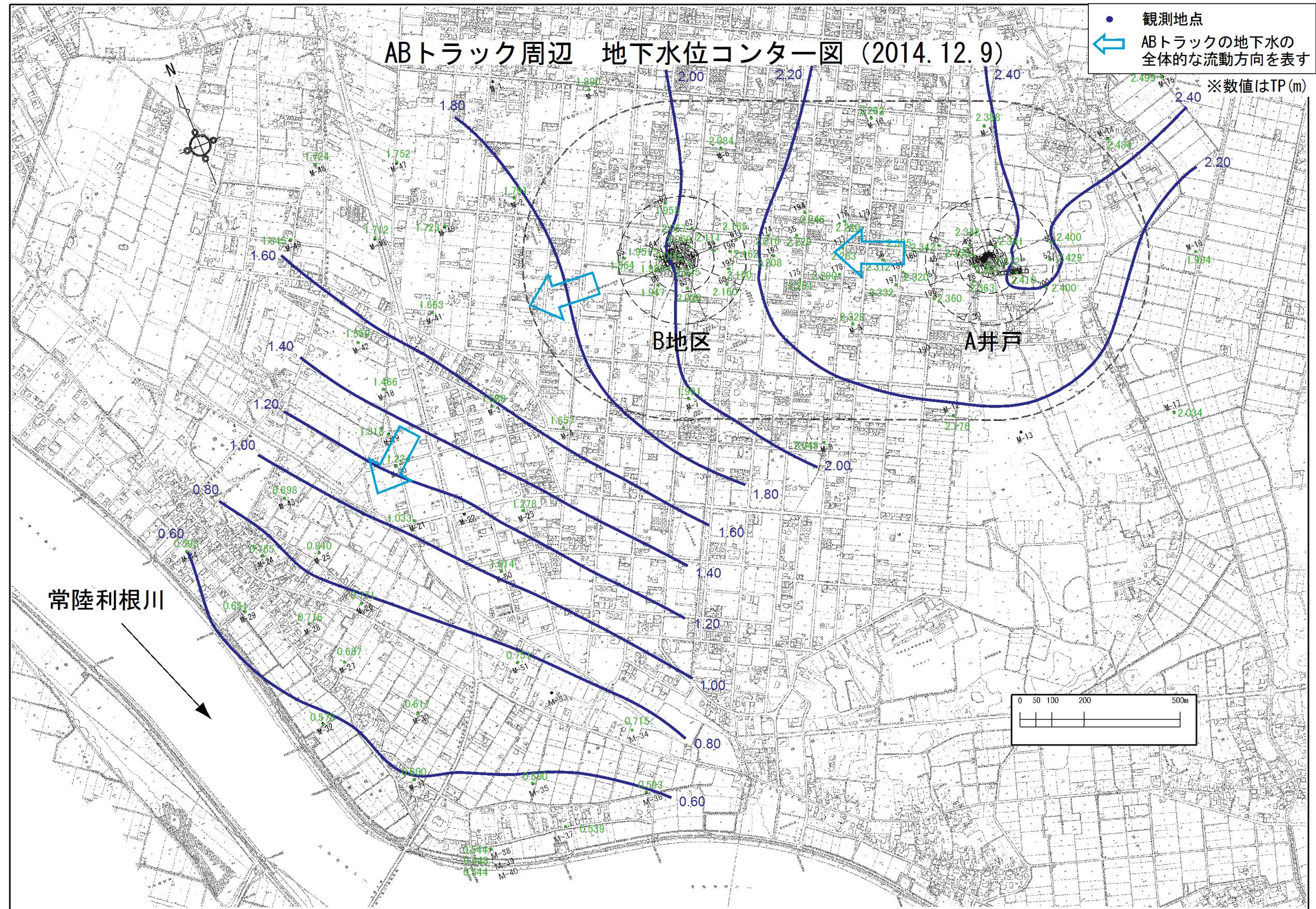


図3 地下水位センター

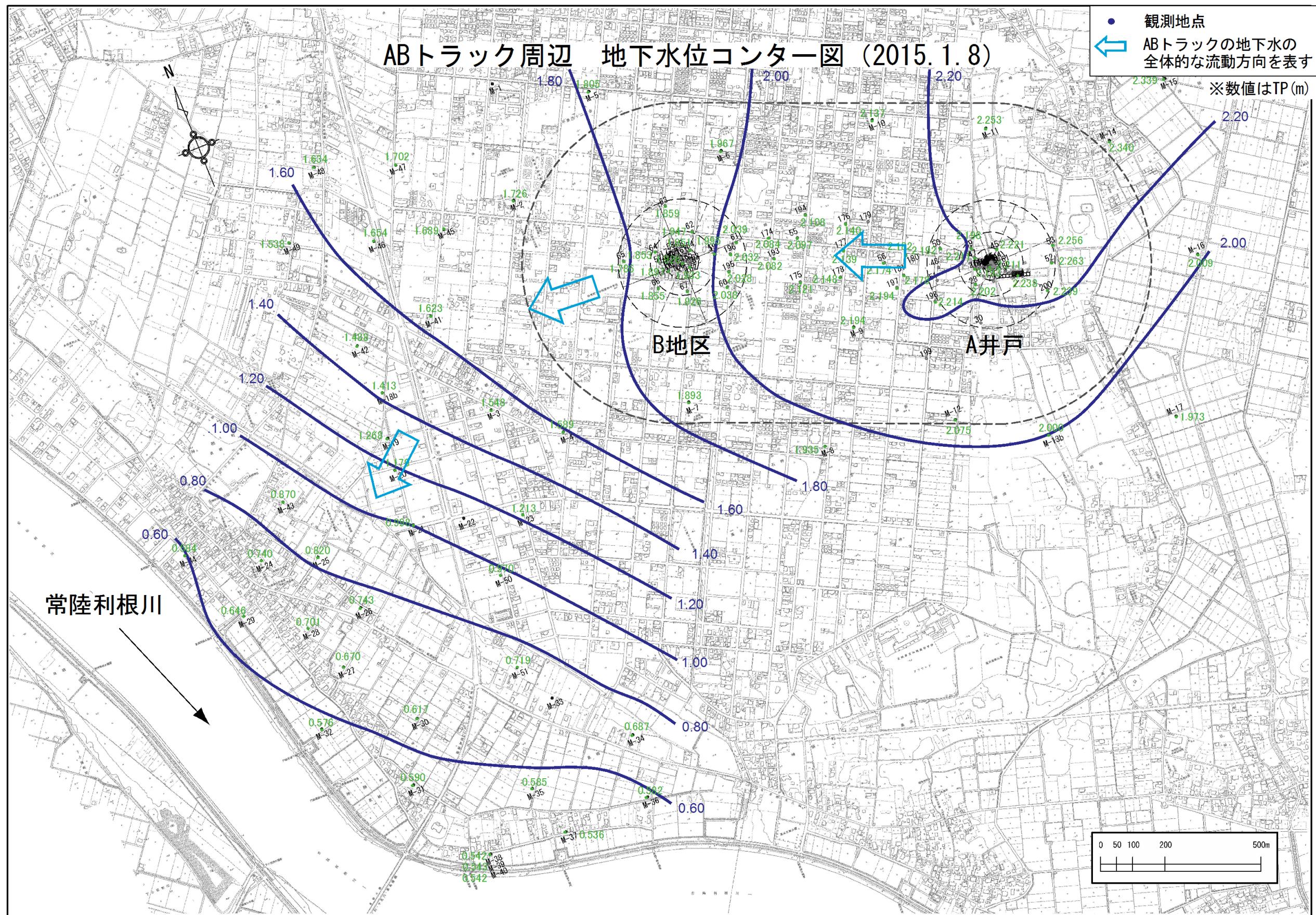


図3 地下水位センター

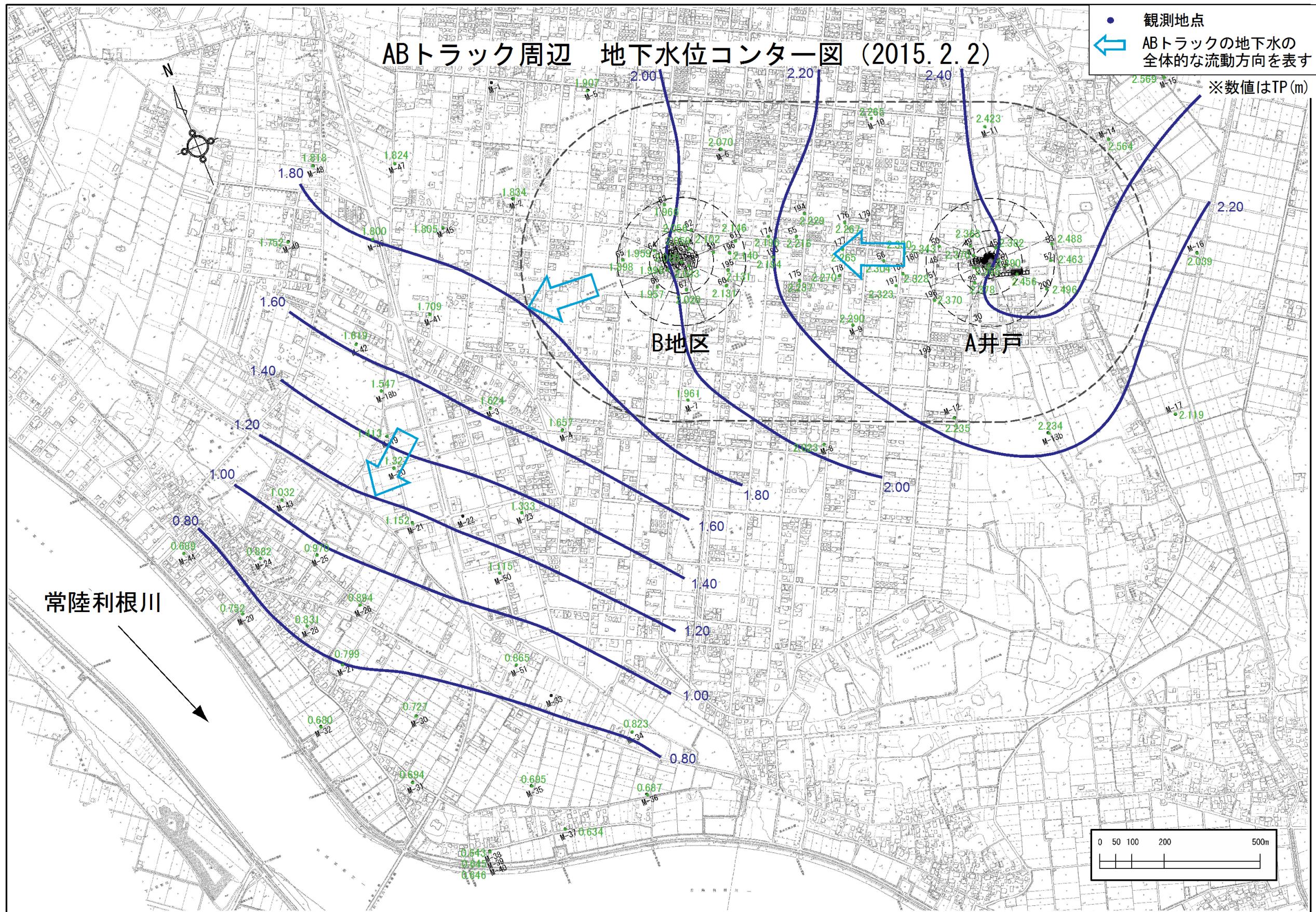


図4 DPAA濃度変化掘削調査地点周辺 単位: $\mu\text{g-As/L}$

※地図の値は2014年秋季の10mのDPAa濃度を表す

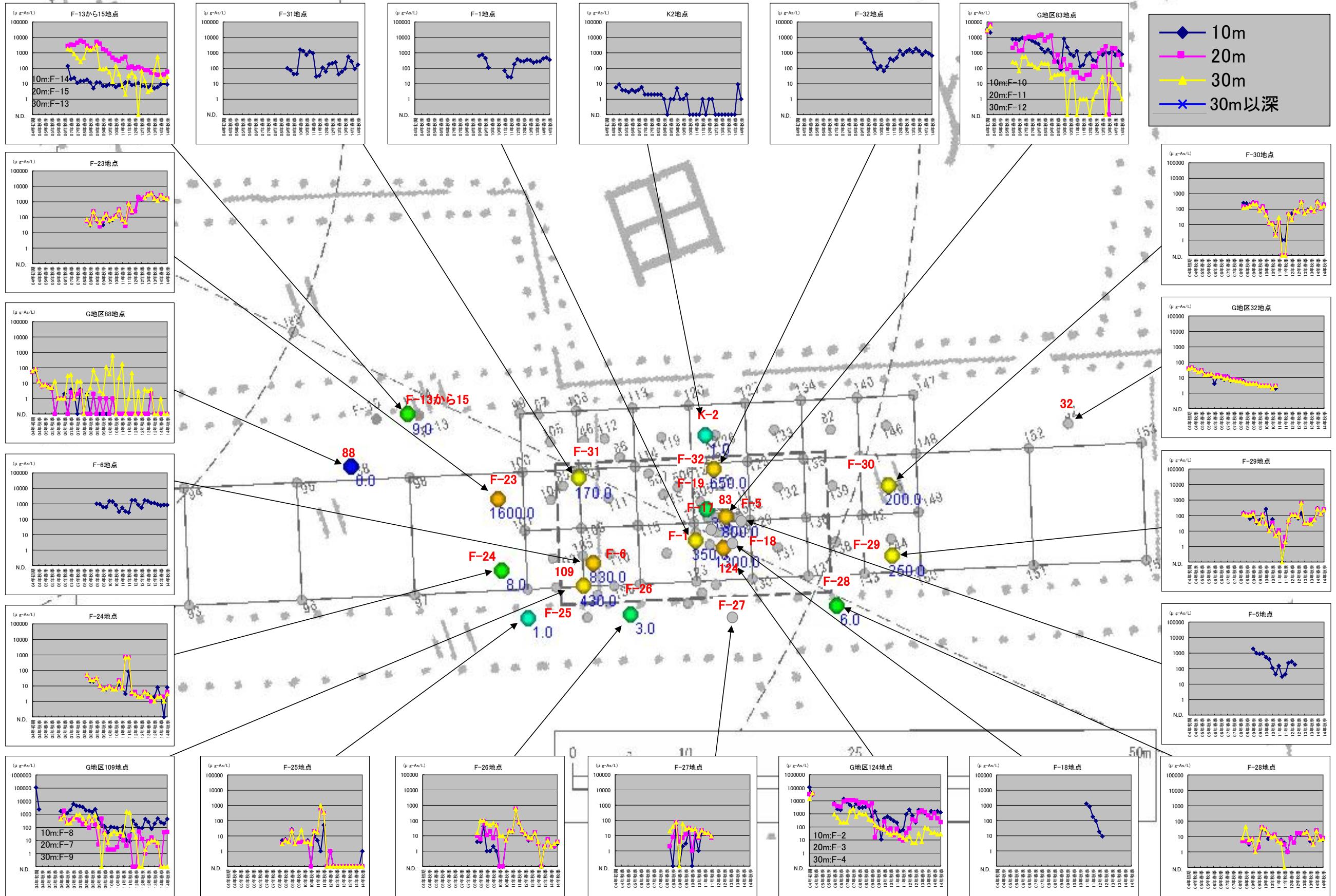


図5 DPAA濃度変化 A井戸周辺 単位: $\mu\text{g-As/L}$

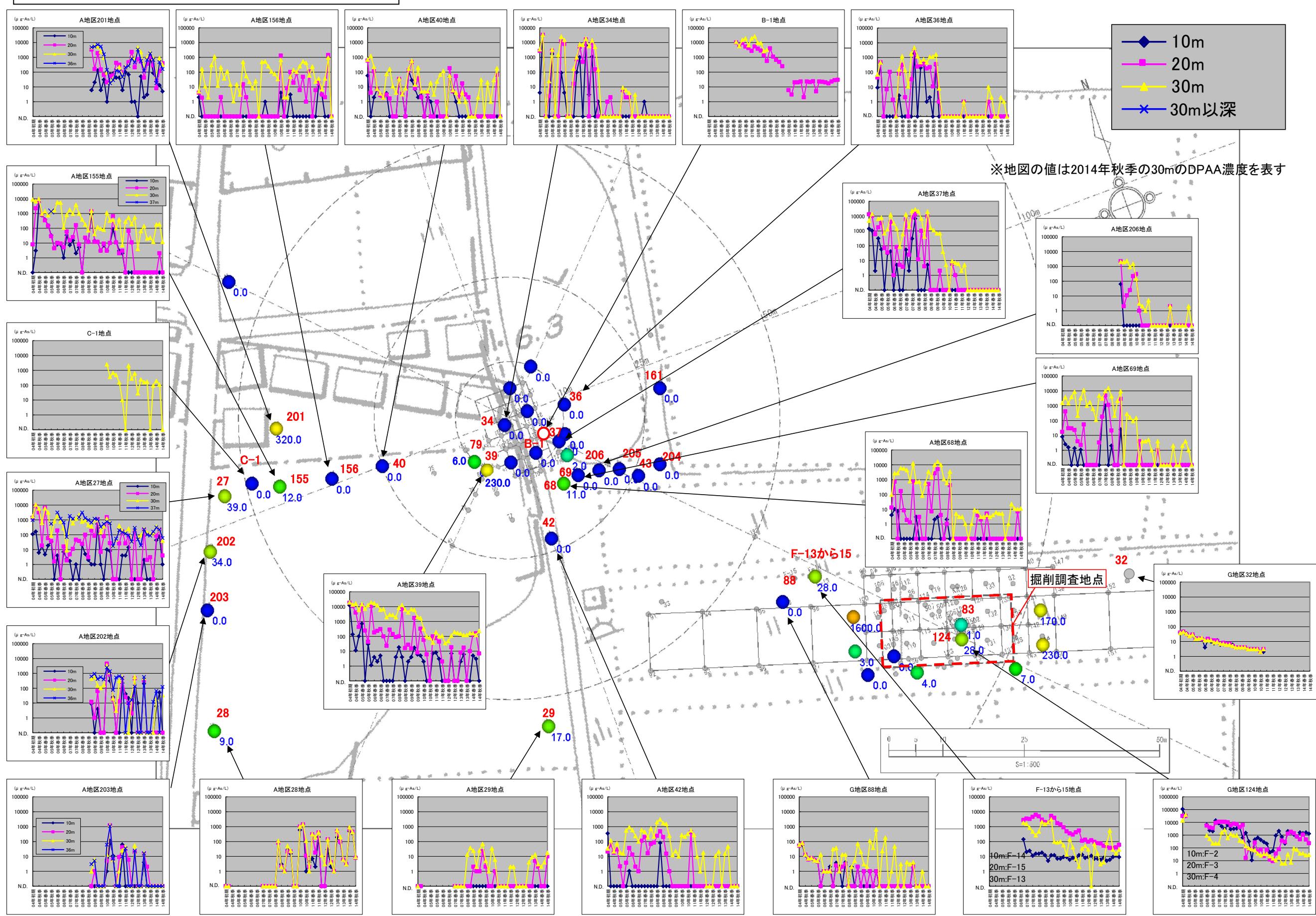
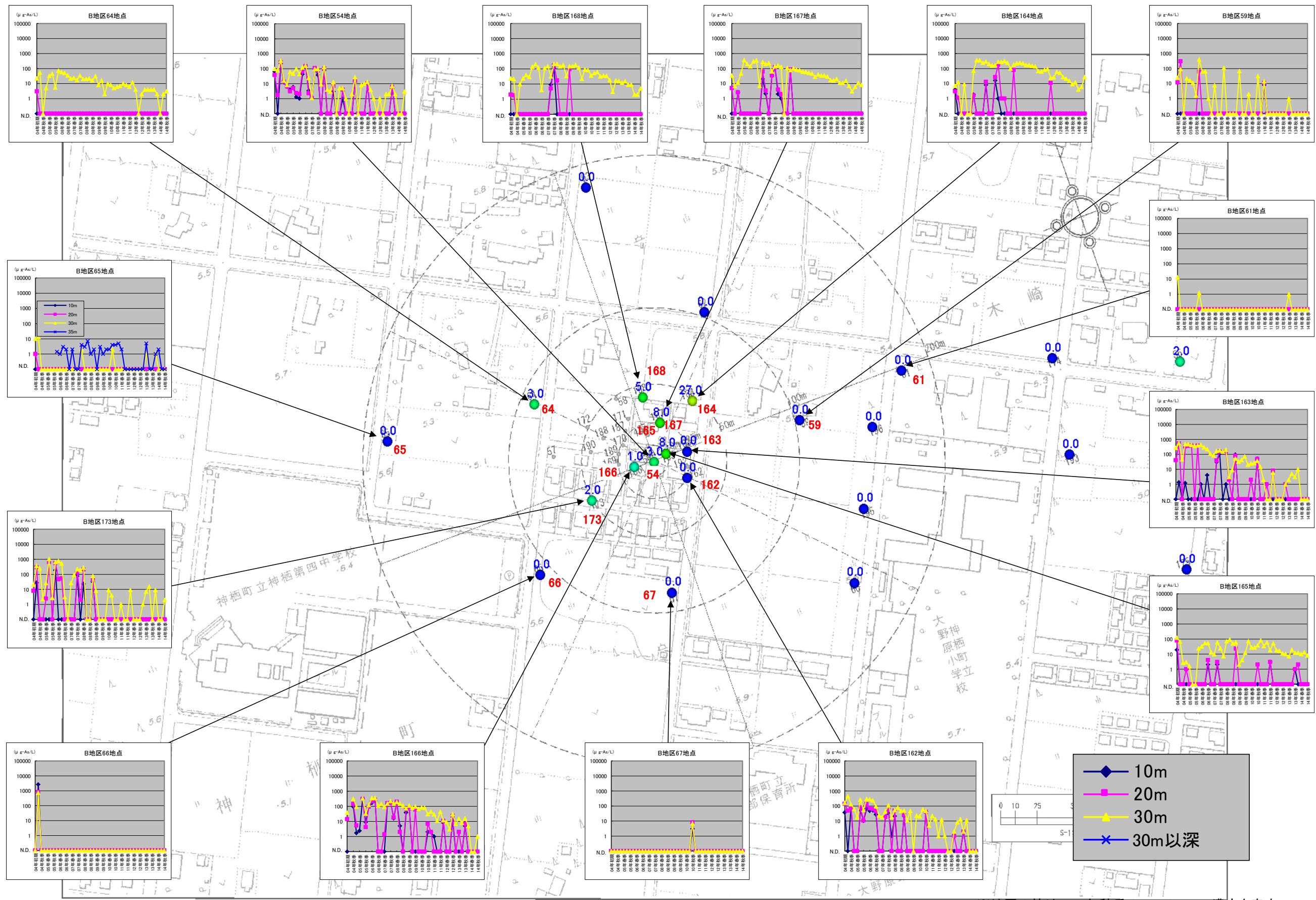


図6 DPAA濃度変化B地区 単位： $\mu\text{g-As/L}$



※地図の値は2014年秋季の30mのDPAA濃度を表す

図7 DPAA濃度変化 AB トラック及びAB トラック外縁部 単位: $\mu\text{g-As/L}$

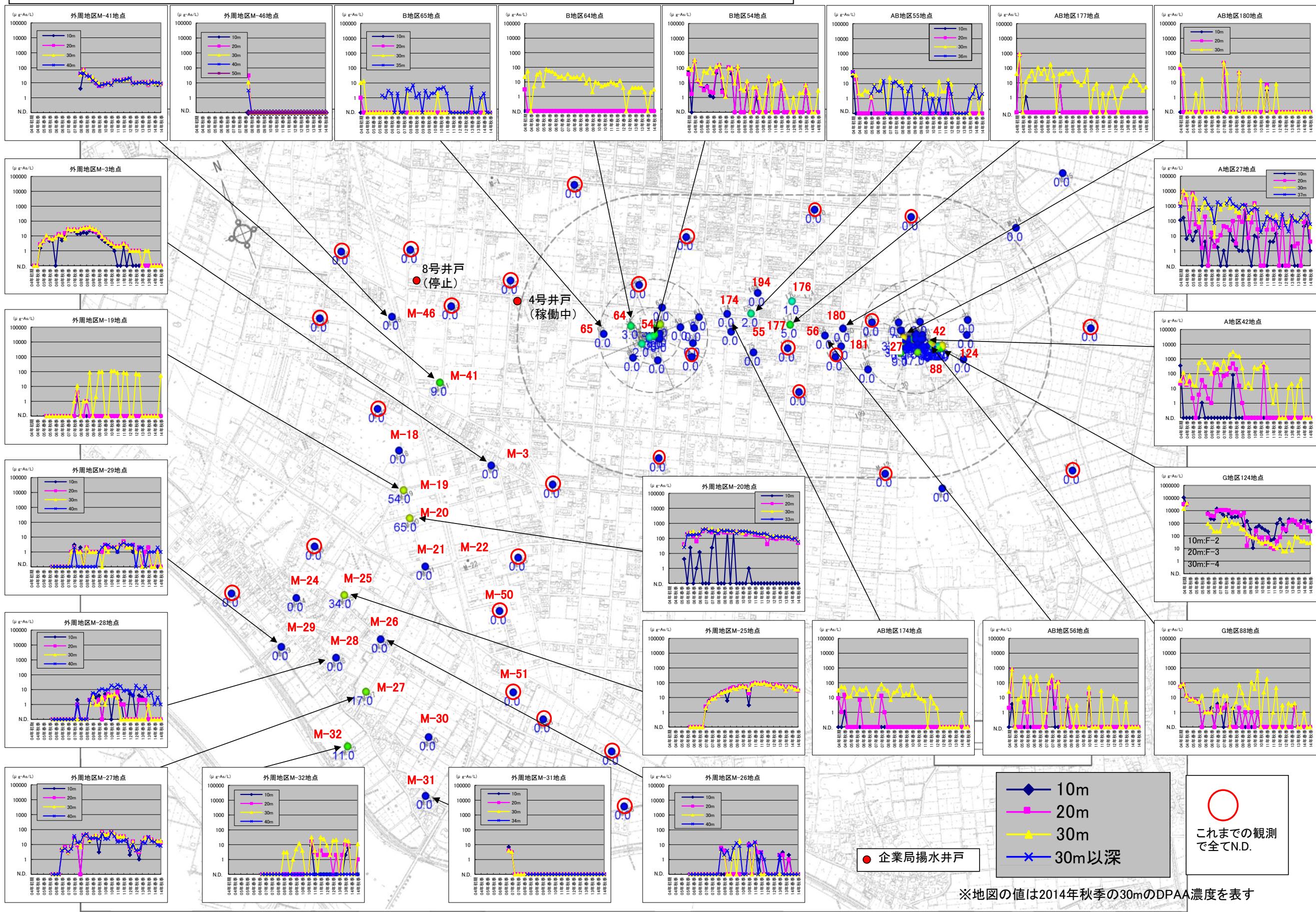


表 DPAA 分析結果一覧 (単位: $\mu\text{g-As/L}$ 、定量下限値: $1 \mu\text{g-As/L}$)

※1 A : A 戸周辺、B : B 地区、AB : A 戸 B 地区間、G : 掘削調査地点周辺、外周 : AB トラック外縁部

※2 同一時期に同深度で2回以上測定された場合は最高濃度を記載

色凡例(単位: $\mu\text{g-As/L}$)

1	以
10	以
100	以
1000	以
10000	以
100000	以

表 DPAA 分析結果一覧 (単位 : $\mu\text{g-As/L}$ 、定量下限値 : $1 \mu\text{g-As/L}$)

	初期採取	2004年			2005年			2006年			2007年			2008年			2009年			2010年			2011年			2012年			2013年			
		夏季採取	秋季採取	冬季採取	春季採取	夏季採取	秋季採取	冬季採取	春季採取	夏季採取	秋季採取	冬季採取	春季採取	夏季採取	秋季採取	冬季採取	春季採取	夏季採取	秋季採取	冬季採取	春季採取	夏季採取	秋季採取	冬季採取	春季採取	夏季採取	秋季採取	冬季採取	春季採取	夏季採取		
18 A																															A 18	
2 A																															A 2	
23 A																															A 23	
A井戸直近場 水井戸		B-1 A	20m																													
		30m																														30m A B-1
74 A	20m	15	64.49	8.25	2	ND	1.48	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	10m A 74	
		36	474.3	135.04	169	68.2	83.97	N.D.	398.6	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	48	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	20m A 74	
		54	729	203	314	254.5	50.5	110	230	1000	1000	1000	1000	650	320	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	30m A 74	
160 A	20m	13	32.71	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	10m A 160	
		30m	190	2021	2.2	151.92	N.D.	128.4	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	20m A 160	
35 A	20m	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	1.3	1.17	N.D.	11.6	1.3	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	2	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	20m A 35	
		30m																														
A井戸南東 10m		37 A	20m	1400	1033.3	1.97	312.8	55.64	N.D.	29.1	40.5	N.D.	5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	10m A 37	
		30m	4800	14020(24)	6559(25)	7915(25)	679(25)	1277(25)	12377	3200	1400	87	600	13000	1900	22000	28000	21000	6700	420	20000	1600	1100	680	670	38	5	N.D.	N.D.	N.D.	30m A 37	
71 A	20m	910	103.14	3.68	N.D.	2.73	1.0	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	10m A 71		
		30m	2000	14020(24)	6559(25)	7915(25)	679(25)	1277(25)	12377	3200	1400	87	600	13000	1900	22000	28000	21000	6700	420	20000	1600	1100	680	670	38	5	N.D.	N.D.	N.D.	30m A 71	
36 A	20m	44	479.9	N.D.	6.9	105.54	1.98	N.D.	78.4	2.2	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	20m A 36	
		30m	69	461(3.25)	44	479.9	N.D.	6.9	105.54	1.98	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	30m A 36	
69 A	20m	8	2.52	1.55	N.D.	1.34	N.D.	1.1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	10m A 69	
		30m	1500	3664	1426	3889	8688	209.56	3208	6	1120.0	1000	1700	600	4300	3000	9500	15000	4300	2100	9400	N.D.	280	180	90	150	N.D.	4	1	N.D.	N.D.	30m A 69
43 A	20m	1.54	54.83	2.2	N.D.	5.31	6.0	1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	10m A 43		
		30m	111	52.69	2.2	N.D.	5.31	6.0	1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	20m A 43		
161 A	20m	N.D.	N.D.	2.08	1.1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	10m A 161		
		30m	N.D.	N.D.	3.03	1.1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	20m A 161	
44 A	20m	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	10m A 44	
		30m	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	30m A 44	

表 DPAAs 分析結果一覽 (単位: $\mu\text{g-As/L}$ 、定量下限値: $1 \mu\text{g-As/L}$)

※1 A : A 井戸周辺、B : B 地区、AB : A 井戸 B 地区间、G : 掘削調査地点周辺、外周 : AB トラック外縁部

※2 同一時期に同深度で2回以上測定された場合は最高濃度を記載

色凡例(単位: $\mu\text{g-As/L}$)

1 以上
10 以上
100 以上
1000 以上
10000 以上
100000 以上

表 DPAA 分析結果一覧 (単位: $\mu\text{g-As/L}$ 、定量下限値: $1 \mu\text{g-As/L}$)

※1 A : A 井戸周辺、B : B 地区、AB、A 井戸 B 地区间、G : 掘削調査地点周辺、外周 : AB トラック外縁部

※2 同一時期に同深度で2回以上測定された場合は最高濃度を記載

表 DPAA 分析結果一覽 (単位: $\mu\text{g-As/L}$ 、定量下限値: $1 \mu\text{g-As/L}$)

※1 A : A 井戸周辺、B : B 地区、AB、A 井戸 B 地区間、G : 掘削調査地点周辺、外周 : AB トラック外縁部

※2 同一時期に同深度で2回以上測定された場合は最高濃度を記載

色凡例(単位: $\mu\text{g-As/L}$)

単位: $\mu\text{g-As/L}$
1 以上
10 以上
100 以上
1000 以上
10000 以上
100000 以上

表 DPAA 分析結果一覽 (単位: $\mu\text{g-As/L}$ 、定量下限値: $1 \mu\text{g-As/L}$)

※1 A : A 井戸周辺、B : B 地区、AB、A 井戸 B 地区间、G : 挖削調査地点周辺、外周 : AB トランク外縁部

※2 同一時期に同深度で2回以上測定された場合は最高濃度を記載

表 DPAA 分析結果一覧 (単位: $\mu\text{g-As/L}$ 、定量下限値: $1 \mu\text{g-As/L}$)

※1 A : A 井戸周辺、B : B 地区、AB、A 井戸 B 地区間、G : 掘削調査地点周辺、外周 : AB トランク外縁部

※2 同一時期に同深度で2回以上測定された場合は最高濃度を記載

色凡例(単位: $\mu\text{g-As/L}$)

1以上
10以上
100以上
1000以上
10000以上
100000以上